

防災支援ネットワーク基本構想における広域災害ボランティアセンターの考え方について

1 広域災害ボランティアセンターの設置の考え方

(1) ボランティアとボランティアセンターとのマッチング

- ・ 支援のために集まったボランティアの（業務）マッチングは、できる限り被災地に近い場所において行われることが望ましい。
よって通常、マッチングは市町村災害VC（ボランティアセンター）で行うこと原則であり、県災害VCはその後方支援行う。

(2) 広域災害VCの設置の必要性

- ・ 大規模災害時には被災市町村が壊滅的ともいえる甚大な被害を被ることから、被災地の後背地に支援機能を置いて、被災地ニーズを適切に把握し、市町村災害VCの機能を代替しつつ市町村VCを自律的に稼働させる機能を持ったVC（広域災害VC）の設置が期待される。
- ・ 広域災害VCの形態は、県災害VC（県全体を統括）のサテライトセンターとして設置することが現実的
（但し、この場合、県は、県全体のセンター機能と広域災害VC両者の機能を稼働させる方策の研究が必要となる。）

2 広域災害VCの必要性の判断

- ・ 被災状況により市町村災害VCの開設が困難
- ・ 市町村VCが機能しないという事態が近接する複数市町村で発生していること、
- ・ 被災市町村の災害VCの設置者又は運営者あるいはその双方から支援要請がなされていること、など

3 広域災害VCに必要な機能

- ①資源配分調整機能、②千葉県全体としての情報発信機能、③市町村災害VCスタッフ及びボランティアの集合分散拠点機能、④市町村災害VC運営維持のための資材等の集配機能、⑤ボランティアの滞在機能

4 広域災害VCに必要とされる施設等

- ① 事務所（非常用電源装置を含む。）、② 通信施設、③ スタッフ、ボランティアの集合分散場所等の敷地（空間）
- ④ ボランティアの滞在施設（宿泊施設又は野営用に整地された空間）

5 今後の課題

- ・ 広域VC設置に必要な施設等の確保
- ・ 県災害VCの代替設置場所

（現在、中庁舎1階ロビー又は千葉県社会福祉協議会ボランティアセンターを使用することが予定されているが、これらの施設が被災した場合の県災害VCの代替設置個所の確保）